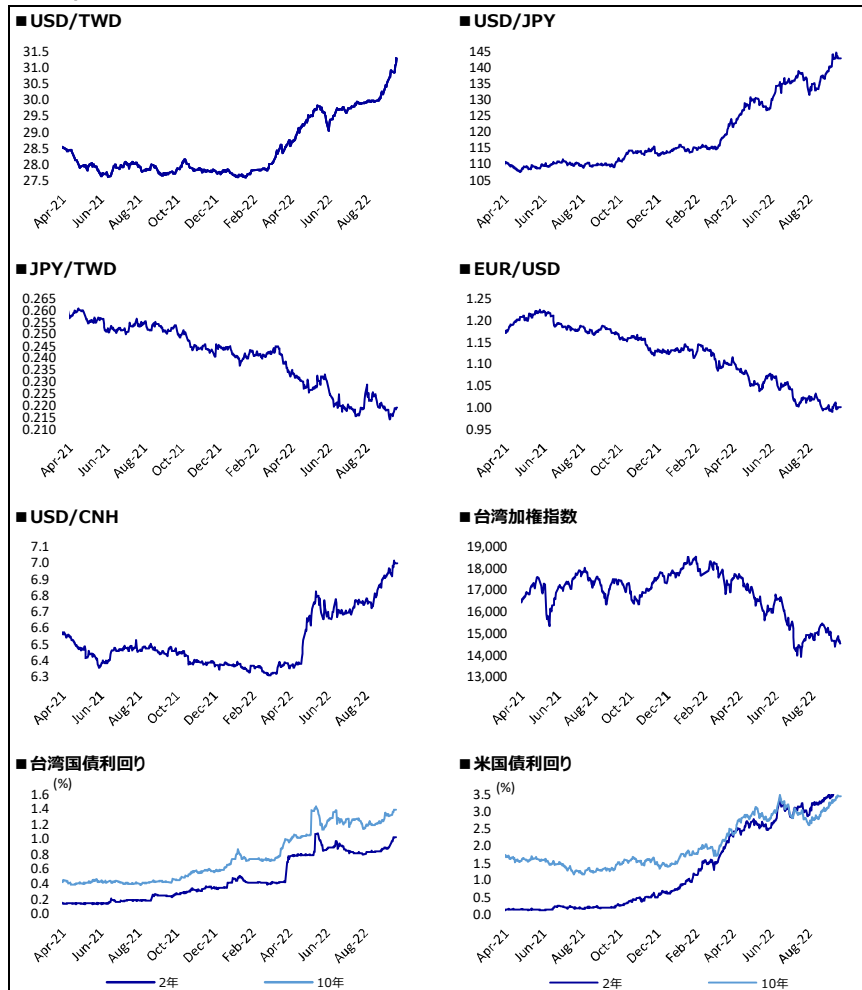


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇し、約3年ぶりの水準に。週初9/12は30.850でオープン後、30.830まで下落したが、外銀や輸入企業のドル買いから上昇し、30.90付近で推移。9/13は台湾株が上昇したことから上値は重かった。9/14は米8月CPIの結果を受けて台湾株安台湾ドル安が加速すると31台を抜けて、一時31.15付近まで上昇したが、一巡後は31.10付近で推移。9/15も31.10付近で推移したが、輸出企業が様子見しており、上値を押さえる動きがなく、31.15付近まで上昇。9/16は人民元が7台に突入する中、アジア通貨安の流れから台湾ドル売りが優勢に。台湾株も下落しており、31.2台を抜けて31.3台まで上昇し、一時31.360と約3年ぶりの水準をつけた。最終的に先週比1.3%ドル高台湾ドル安の31.293で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は171.5億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初9/12は142.40でオープン後、米金利の上昇につられて143円台半ばまで上昇するも、米CPIの発表を前にNY連銀調査のインフレ期待が前回から下方修正されたこともあり物価上昇のピークアウトへの期待から142円台前半に戻した。9/13は米金利の低下につられて141円台後半まで下落。その後、米8月CPIが発表されると、前年比+8.3%と前月より低下したものの予想を上回り、コアは+6.3%と前月を上回り、予想外に強い結果となった。これを受けてドル円は一旦141.61まで下落したがすぐに上昇し、144円台半ばまで上昇。9/14もドル買いの流れが継続し、一時144.97をつけたが、本邦当局者からの円安けん制発言や日銀のレートチェック実施の報道から為替介入への警戒感が高まり、142円台後半まで下落した。9/15は米金利の上昇から143円台半ばまで上昇するも日銀のレートチェックの報道から為替介入への警戒感が高い状態が続いており、上値は重かった。9/16は日本の連休を前に持ち高調整の動きが見られたものの、143円付近の推移が続いた。最終的に先週比0.2%ドル高円安の142.94で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.200-31.500
今週はFOMC、台湾中銀の金融政策決定会合を控えている。FOMCではインフレ抑制のために金融引き締めを行う姿勢を強く示されれば、景気後退への懸念や米金利の上昇から台湾株安台湾ドル安の流れは続くであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：142.00-146.00
今週はFOMC、BOJを控えている。BOJについては政策変更が想定されていないものの、FOMCでは米8月CPIの結果を受けて0.75%の利上げは確実視され、1.00%の利上げを市場では織り込み始めている。タカ派は内容となれば、145円台を突破することになるであろうが、本邦当局の為替介入への警戒感も高まるため、ボラティルな動きとなるであろう。

今週の予定

9/19 (MON)	日本休場
9/20 (TUE)	台湾8月輸出受注、米8月住宅着工件数
9/21 (WED)	FOMC
9/22 (THU)	日銀金融政策決定会合、台湾8月失業率、台湾金融政策決定会合
9/23 (FRI)	日本休場、台湾8月鉱工業生産、米9月製造業・サービス業PMI

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。